

市町村で作成されている居宅サービス事業者と 利用者・家族間の共通連絡ノートの実態調査

Local Government Notebooks Utilized Among Elderly/families, Day Services,
and Home Health Care Agencies

新田 静江, 望月 紀子, 清水 祐子, 上村 奈美, 山崎 洋子, 太田真里子
NITTA Shizue, MOCHIZUKI Noriko, SHIMIZU Yuko, UEMURA Nami, YAMAZAKI Yoko, OHTA Mariko

要 旨

本調査では、居宅サービス事業者間ならびに利用者・家族と居宅サービス事業者が活用できる共通連絡ノート作成の基礎資料として、県内市町村における共通連絡ノートの作成状況と形式・内容の実態を調べた。平成17年8月現在のY県内全38市町村を対象に、調査用紙を郵送法にて回収した(回収率78.9%)。共通連絡ノートは4市町(13.3%)で、市町保健師・事務職又は事業者との協働で作成され、不便さや連携の取りにくさなどが作成理由となっていた。配付価格は無料で、配付元、配付対象、装丁は様々であった。基本情報欄には、利用者情報と緊急連絡先、事業者・機関連絡先一覧が、家族欄と事業者記載欄には項目と自由記載が設けられていた。共通連絡ノートの作成は、市町村の担当者が、不便さや不備への意見に基づき、予算、利便性・簡便性、個人情報保護を踏まえて作成することが求められ、その評価や活用効果を明らかにすることが課題である。

キーワード 居宅サービス事業者, 家族, 共通連絡ノート, 市町村

Key Words Day Service/Home Health Care Agencies, Family, Notebook, Local Government

はじめに

現在、介護保険制度における居宅サービス提供者と利用者・家族間における情報提供や情報交換には連絡ノートが用いられているのが一般的である^{1)~3)}。連絡ノートに関して、「居宅サービス記録研究会」³⁾の作成した計画表、事業者記載欄と利用者・家族記載欄などのある「共通記録書」や、亀井ら¹⁾²⁾の試作した書類や処方薬の説明書を挿入できる「在宅ケア連携ノート」が報告されている。通所リハビリテーションにおいては、簡潔に記載でき読みやすいことを目指し、利用者の状態を笑顔・普通・不機嫌な3種の顔のマークで表現できる項目欄と数行記載できる自由記載欄を設けた連絡ノート⁴⁾や、援助計画と経過記録の開示に向けて、コンピュータとカーボン紙を活用した経過記録と連絡ノートの統合⁵⁾が報告されている。また、市場では「介護連絡ノート」⁶⁾⁷⁾などが市販されているものの、これらの普及の実態は判然としない

のが実情である。

Y県内における通所サービスと訪問看護の併用利用者50名の連絡ノートの活用に関する研究者らの調査⁸⁾では、31か所の通所サービス事業者で27種のノートが使用されており、居宅サービス事業者は千差万別のノートを使用している実態を報告した。また、対象者は通所サービスと訪問看護を併用利用しているものの、連絡ノートはサービス提供者間の連携にはほとんど活用されていなかった。この結果から、複数サービスの併用利用者・家族は、サービス事業者が定めた複数の連絡ノートを所有し、それぞれを読んだり記載したりする状況にあるといえる。

現在、介護保険制度における居宅サービス利用者の多くが、訪問サービスと通所サービスなどの複数のサービスを選択利用している⁹⁾。これらの居宅サービス提供者が日常的に使用している連絡ノートをサービス事業者間で共有することは、情報交換により連携を促進させるとともに、利用者・家族の記載負担軽減が期待できる。各居宅サービス事業者は、事業者と利用者・家族間で活用する独自の連絡ノートは作成できても、サービス事業者相互が日々の情報を交換しうる共通連絡ノートを、設置主体の異なる事業者間で作成することは困難である。そ

受理日：2006年1月25日

山梨大学大学院医学工学総合研究部(高齢者看護学):
Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Engineering
(Gerontological Nursing), University of Yamanashi

のため自治体などが、住民や事業者のニーズに応じる事業として施策化していくことが望ましいが、共通連絡ノートに関しては明らかになっていないのが現状である。

・用語の操作的定義

共通連絡ノート：介護保険における居宅サービス事業者間および居宅サービス事業者と利用者・家族間の情報交換として使用されている市町村が関与して作成した連絡ノート

・調査目的

本調査では、居宅サービス事業者間ならびに利用者・家族と居宅サービス事業者が活用できる共通連絡ノートを作成するための基礎資料として、Y県内の市町村における共通連絡ノートの作成状況と形式・内容の実態を明らかにすることを目的とした。

・調査方法

1. 対象

調査対象は、平成17年8月現在のY県内全38市町村とし、その内訳は、12市、16町、10村であった。

2. 調査内容とデータ収集方法

Y県介護保険担当部署と調査者との連携のもとで調査用紙を作成した。調査内容は、市町村名、介護保険担当部署、記入者の氏名・職種・問い合わせ先、市町村で定める連絡ノートの有無、作成経緯(時期・担当者・作成理由)および作成予定とした。調査用紙は、郵送にて配付・回収した。

調査用紙回収後、共通連絡ノートを作成している市町村には、電話にて記載内容に対する確認と共通連絡ノートの配付価格・配付元・配付状況を問い合わせた。

3. 調査期間

平成17年8月から平成17年9月

4. 倫理的配慮

調査依頼書に、記入者名・連絡先・回答内容は調査者以外が目を通すことはない旨を記載し、回答をもって同意と判断した。

5. データ分析

データは、統計ソフトExcel 2000を使用し、記述統計を行なった。

表1 県内市町村の定める共通連絡ノートの実態

	総数	回収	共通連絡ノート			通所用ノート
			あり	ない	作成予定	
市	12	12	2	10	0	0
町	16	12	2	8	0	2
村	10	6	0	5	0	1
計	38	30	4	23	0	3

・結果

1. 概要

調査対象全38市町村における調査用紙回収率は78.9%(N=30)であり、その内訳は、12市中12市(100%)、16町中12町(75.0%)、10村中6村(60.0%)であった。また市町村内における共通連絡ノートは2市と2町(13.3%)が作成しており、3町村では町村内の通所サービスにおける連絡ノートを作成していた。なお、作成していない市町村は、いずれも共通連絡ノート作成の予定はないと回答していた(表1)。

2. 共通連絡ノート作成経緯と配付状況

表2に示した通り、共通連絡ノートは、A市、B市、D町の3市町では近年の町村合併以前の平成14年に作成し、C町では16年に作成している。A市では市の保健師と通所サービス・訪問サービス・施設サービスの事業者、B市では保健師・事務職とサービス事業者・ケアマネージャー、C町では事務職とサービス事業者・ケアマネージャー、D町では保健師が作成に携わった。

作成理由については、利用者・家族からの意見、事業者からの意見、市町からの意見がみられた。利用者・家族からの意見には、複数の連絡ノートによる「混乱」や「不便さ」がA市とB市の2市であげられていた。事業者からの意見には、A市では、サービス事業者間の連絡のとりにくさ、B市では連携の必要性、独居や認知症のある利用者の在宅での様子やサービス事業所での様子をお互いに情報交換しあう必要性、利用者の内服、食事、排泄などの状況を判断するための情報の必要性などがあげられていた。D町は、町職員が事業者間の連携の必要性を感じ、統一したサービス提供や状態の把握の必要性を記載している。

共通連絡ノートの配付価格は、4市町で無料となっており、その配付元は市町、事業者、担当ケアマネージャーなど様々であった。共通連絡ノートの配付対象は、利用者全員がA市、ほとんどの利用者がB市とD町、複数のサービス利用者がC町と異なっていた。(表2)

表2 共通連絡ノートの作成経緯と配付状況

		A市	B市	C町	D町
作成年		H14年	H14年	H16年	H14年
作成者	市町	保健師 事務職			
	事業者	通所サービス 訪問サービス 施設サービス ケアマネジャー			
作成理由		・利用者側から、何冊もノートがあり不便との声 ・各事業者の独自ノートを使用しているため、横の連絡がとりにくく、共通ノートの作成の要望	・複数のサービス利用者は、複数のノート使用、メモや口頭での確認が混乱 ・独居や認知症の利用者の在宅や事業所での様子を、家族、事業者間で伝わらない ・利用者の内服や食事、排泄などの状況を判断するの必要	・町の在宅介護支援センター職員や複数の事業者から連絡ノートの必要性の声	・町が事業者間の連携の必要性を感じ統一したサービス提供や状態把握のために作成
配付価格		無料	無料	無料	無料
配付元	市町				
	事業者				
	ケアマネジャー				
配付対象	全利用者				
	ほとんどの利用者 複数のサービス利用者				

注) 印は該当する項目

3. 共通連絡ノートの形式と記載欄内容

表3に示した通り、共通連絡ノートの装丁は、バインダー形がA市とC町、ノート形がB市とD町であり、大きさはB6版からA5版まであり、内ポケットを有するものと有しないものなど、それぞれであった。利用者の基本情報欄には、氏名が4市町、住所がA市、B市、D町の3市町、生年月日および介護認定結果(介護区分)がB市とD町の2市町、その他(身長、体重など)が設けられており、家族の基本情報には緊急連絡先が4市町と家族構成がD町に設けられている。サービス事業者・機関の連絡先一覧には、主治医・ケアマネジャー・事業者・介護保険相談窓口が4市町に、保健師・その他の関係者がA市とC町の2市町にあげられていた。

経過記録は、通所サービス・訪問サービス共通用がB市、C町、D町の3市町にみられ、その内訳では、ノート形がB市とD町の2市町、バインダー形がC町であった。C町のバインダー形は、通所サービス・訪問サービス共通用とショートステイ用と2パターンの用紙をバインダーにファイルする形であった。A市のバインダー形は、

通所サービス用、訪問サービス用、ショートステイ用とそれぞれサービスごとに異なった用紙を用いてバインダーにファイルする形であった。なお、D町の共通連絡ノートにのみ、記入例がみられた。記入例には、利用者・家族が自由に記入してほしいと明示し、介護内容、気づいた点、事業者への連絡事項、サービス事業者の記録などが事例を用いて説明されていた。

記載欄は、通所サービス用では、家族欄として食事・排泄・睡眠などを含んだ項目と自由記載がA市とC町の2市町に、事業者欄として血圧・体温・脈拍などのバイタルサイン、食事、排泄、レクリエーション、入浴などを含んだ項目と自由記載が4市町に設けられていた。訪問サービス用では、家族欄として食事、排泄、睡眠などの項目と自由記載がC町に、事業者欄としてバイタルサイン、食事、排泄などの項目と自由記載4市町に設けられていた。ショートステイ用では、家族欄として自由記載のみがA市に、事業者欄としてバイタルサイン、食事、排泄などを含んだ項目と自由記載がA市とC町の2市町に設けられていた。

表3 共通連絡ノートの形式と記載欄内容

		A市	B市	C町	D町	
装丁	形式	バインダー	ノート	バインダー	ノート	
	大きさ	A4版	B6版	A5版	A5版	
	内ポケット					
基本情報欄	利用者	氏名				
		住所				
		生年月日				
		介護認定結果				
	その他		身長,体重,血液型		電話 身長 体重 現病・既往歴 職歴 趣味 嗜好 近所 留意点	
	家族	家族構成				
		緊急連絡先				
	連絡先	主治医				
		ケアマネージャー				
		事業者				
介護保険相談窓口						
地区担当保健師						
その他		その他の関係者		その他の関係者		
その他	・事業者間の連絡事項		・町のサービス利用状況	・受診記録 ・薬リスト		
記載欄	記入例					
	通所サービス用	家族	項目	食事		
			排泄			
		睡眠				
		体調				
		その他	入浴		薬 着替え 朝の体温	
	事業者	自由記載				
		バイタルサイン				
		項目	食事			
		排泄				
レクリエーション						
入浴						
その他	リハビリ	薬 訓練	薬 整容 精神面			
自由記載						
訪問サービス用	家族	項目	食事			
		排泄				
	睡眠					
	その他			薬 着替え 朝の体温		
	自由記載					
事業者	項目	バイタルサイン				
	食事					
	排泄					
	その他	薬 清潔 訪問時間	薬 訓練	薬 整容 精神面		
	自由記載					
シートのスタイ用	家族	項目	食事			
		排泄				
	自由記載					
	項目	バイタルサイン				
	食事					
排泄						
その他	睡眠 入浴		清潔 睡眠 移動 精神状態			
自由記載						

注) 印は該当する項目

考察

本調査は、Y県介護保険担当部署との連携のもとで実施し、回収率が78.9%であったが、平成17年10月の介護保険の改正実施後の調査であれば回収率を上げられたものと思われる。回収された結果において、共通連絡ノートを作成しているのは、4市町とごく一部であり、今後作成予定のある市町村は皆無であった。その理由として、利用者・家族および事業者が共通連絡ノート作成の必要性を感じていない、または市町村合併などに伴う繁忙な状況下では連絡ノートに関する問題などの把握が進んでいないことが推察される。また、小規模町村において通所サービスのみが存在しており、複数のサービスを併用利用することが困難な状況にあるためと思われる。

共通連絡ノートは、複数サービス併用利用者・家族からの不都合さや不便さと、利用者の情報を把握したいという市町および事業者の要望が作成理由となっており、市町の保健師・事務職と事業者との協働で作成されていた。従って、利用者・家族、市町および事業者が不便さや不備への意見が、共通連絡ノート作成の原動力になっていると言えよう。

配付価格は4市町共に、利用者・家族の経済的負担のない無料となっていた。本調査では、配付における市町予算について調査内容としていないが、新たに共通連絡ノート作成を検討する場合には、予算の詳細を明らかにしていく必要がある。配付元については、ケアマネジャーに依頼せずに介護サービス計画をたてる場合もありうるため、ケアマネジャーのみに限定せず、ケアマネジャー、市町、又は事業者とすることで利便性をはかることが望ましいと思われる。配付対象も様々となっているが、市町において介護保険認定者全員へ配付しておくことは、直ちにサービスを利用する認定者にも、サービス利用が何週間あるいはい何ヶ月後になる認定者にも行き渡ることとなり、介護保険に関する理解や共通連絡ノートの普及を促進させる効果を期待できるとと思われる。

共通連絡ノートの装丁をみると、バインダー形はサービス区別にファイルされているためサービス内容の把握が容易であり、用紙の追加ができることが長所である。一方、ノート形は、経時的にサービス内容や状態把握が可能であり、用紙を散逸する危険がなく薄手で持ち運びやすいのが長所である。A4版～B6版まである大きさは、通所サービス利用者にとっての持参しやすさを考慮すると、A5版又はB6版が望ましい。また、連絡ノートの内ポケットは、通所サービスに持参する内服薬や外用薬を入れられる形や素材の工夫が求められる。

4市町の共通連絡ノートのいずれにも設けられていた基本情報記載欄における氏名・住所・生年月日は必須情

報と思われる。しかし、サービス事業者やケアマネジャーが把握している職歴、家族状況、近所との関係などの個人情報や、身長・体重のように変化する値を連絡ノートの基本情報とすることには検討の余地がある。一方、サービス事業者・機関の連絡先一覧は、利用者・家族と事業者の両者に役立つものと思われる。

事業者記載欄には、バイタルサイン・食事・排泄など項目が設けられており、記載の簡便さと記載漏れ防止効果が期待できる。本結果では、家族記載欄を設けているノートとないノートがあったが、家族と事業者との双方向の情報交換をはかるためには、家族記載欄を設けることは重要な課題と思われる。また、家族から利用者の情報を得るためには、体調を表す3種の顔のマークで表現する項目欄⁴⁾を設けるなどの工夫で、家族の記載負担は軽減されるであろう。なお、連絡ノートの記入例は、記載に不慣れな家族には、気軽に記載する助けになると思われる。

本調査では、Y県内の市町村における共通連絡ノートの作成状況と形式・内容の実態が明らかになった。今後、作成された共通連絡ノートの利用者・家族および事業者における評価や活用効果を明らかにすることが、課題と思われる。

謝辞

調査にご協力いただいた市町村の担当者および山梨県福祉保健部職員の皆様に感謝申し上げます。本調査は、山梨大学における平成17年度地域貢献特別支援事業として実施されたものです。

文献リスト

- 1) 亀井智子(2002)在宅高齢者と家族へのチームアプローチを支える - 「在宅ケア連携ノート」をつくる試み - 訪問看護と介護, 7(4): 292-299.
- 2) 亀井智子, 小見光子, 他(2002)在宅高齢者と家族へのチームアプローチを支える「在宅ケア連携ノート」の開発と評価. 聖路加看護大学紀要, 28(3): 50-61.
- 3) 杉田美佐子(2002)共通記録所作成の試み - 居宅サービス記録研究会の取り組みから. 訪問看護と介護, 7(4): 272-277.
- 4) 松土篤正, 古賀洋(2004)家族が安心するためのかわり, デイケア連絡帳の活用, 自立支援とりハビリテーション, 2(2): 11-16.
- 5) 平田広明, 片平真弓(2004)家族と二人三脚のケアを目指したケア計画・経過記録開示の実例, 通所ケア, 1(4): 65-70.
- 6) 在宅介護ノート普及会(2002)介護連絡ノート(在宅介護ノート普及会, <http://www.ab.cyberhome.ne.jp/rinach/index.html>)
- 7) メイプル・リンク(1999)介護連絡ノート(メイプル・リンク,

新田 静江, 他

<http://www.maplelink.co.jp/>)

- 8) 新田静江, 望月紀子, 清水祐子, 他(2005)通所サービス提供者と利用者・家族間における連絡ノートの形式と記載実態. 山梨大学看護学会誌, 4(1): 27-33.
- 9) 厚生労働省(2005)介護給付実態調査月報 - 平成17年1月診査分. 2005/04/12.